



## 思いやりを基軸に

看護部長 上岡 由美子

皆様、新年あけましておめでとうございます。

2025年の干支は乙巳（きのとみ）です。「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味を持つ年とされています。松山市民病院の職員の努力が実を結ぶ年であることを祈らずにはられません。

さて、松山医療圏を取り巻く状況は今後一層厳しくなることが想定されます。

令和元年の厚生労働省の調査では、県民の健康寿命は、男性が71・50歳で全国ワースト2位、女性は74・58歳で、ワースト4位となっています。また、医療需要は2035年がピークであると推定されています。

このような時代を支えるためには、先進医療だけではない「何か」が必要であると考えます。「思いやり」使い古された言葉ではありますが、看護部職員の拠り所となる言葉こそ「基軸」であると考えます。今後も地域の皆様に頼りにされる病院として存在し続ける努力を継続して参ります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



## 病院機能評価を受審して

6S病棟師長 渡邊 恵美



当院は、2024年12月19～20日に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。安全で安心して医療が受けられるよう、病院組織全体の運営管理および提供している医療・看護について、基本的な活動（機能）が適切に実施されているかどうか、第三者によって評価されるものです。

1年前に受審月が決定し、自己評価を行うことから始まり、問題点や何が足りないか、それを確認するため多くの資料に目を通しました。受審の準備段階から、職員が一丸となり努力をすることを実感しました。医療を標準化し質を高めるために、各種委員会の活性化やマニュアルの見直し等を行ない、無事に

2日間の受審を終えることができました。この受審をきっかけに、私達が行なってきた看護を見直すことができ、今後更に質の向上とその維持に努めていきたいと思えます。

